

第3学年3組 社会科学習指導案

指導者 藤崎 和那

- 1 日時 令和元年11月6日(水) 第6校時
- 2 単元名 浜松今昔調査隊! 「かわってきた人々の暮らし」
- 3 単元目標

- 時間の経過に伴う交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具の変化に関心をもち、市や人々の生活の様子の変化について意欲的に調べるとともに、地域社会のよりよい発展について、進んで話し合おうとしている。(関心・意欲・態度)
- 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉えるとともに、その変化の傾向を考えることができる。(思考・判断・表現)
- 資料から必要な情報を読み取ることを通して、市や人の生活の様子について調べ、時期の区分や時間の経過に沿って、調べたことを年表やワークシートにまとめることができる。(技能)
- 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの変化から、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解することができる。(知識・理解)

4 豊かな学びと心をはぐくむために

(1) 児童の実態

本学級の児童は核家族が多く、祖父母と一緒に生活している児童は36人中5人である。そのため、児童は昔のくらしや昔の浜松市の様子について見聞きする機会が少ない。

1学期「市の様子」の学習では、浜松市の7区の地形や土地利用の様子、交通の様子などから、それぞれの区を比較し、特徴を考えることができた。多くの子が地図や「のびゆく浜松」などの資料を見て、地形と土地利用の様子を関連付けて市の様子を読み取ることができた。しかし、資料を読み取ることが苦手な児童もおり、支援が必要である。

(2) 単元構想

本単元では、単元が始まる前に「浜松市アンケート」を取り、今、自分が住んでいる浜松市が好きかどうか、その理由を考えさせる。導入時に結果を提示することで、浜松市の良さを捉えさせ、単元の学習に入っていく。その後、市や人々の生活の様子の変化を調べていく中で、今の自分たちの生活は、昔の人がよりよい街にしようとした思いの上に成り立っていることに気付かせ、もっと自慢できる浜松市にするためには、どうしていくのかを考えさせたい。

本教材では、社会科に苦手意識をもっている児童もいるため、まず泉小学校の周りの航空写真で昔と今の様子を比べ、町の様子の変化に興味をもたせる。家が何もなかったところが今は住宅地になっていることや、泉小学校の校舎が現在と違うことなどに気付かせ、どうしてこんなに変わったのかを予想させる。その理由を調査していくことを確認し、「浜松市や人々の生活の様子は、どのように移り変わってきたのだろうか。」と課題を設定して目的意識をもたせる。

昔の浜松市や人々の生活の様子を知る視点として、「交通」「公共施設」「土地利用」「人口」「生活の道具」の5つについて調べ、それぞれが時代ごとにどのように変化してきたのかを捉える。「交通」では、軽便鉄道が使われた時代から、車・バスが交通の中心となる時代に移り変わったこと、「公共施設」では、浜松駅が時代の流れと共に整備されていったことや、小学校が徐々に増えていったことなどを押さえる。「土地利用」では、泉・和合の昔の地図を提示し、果樹園や畑が多かった土地が住宅地へと変化したことを押さえ、「人口」では、浜松市全体の人口の増減の変化に気付かせる。「生活の道具」では、電化製品が普及する前と後の生活の様子の変化から、人々の暮らしが大きく変わっていること、そこには道具を開発してきた人々の思いがあることを押さえる。また、5つの視点の変化が相互にどのように関連し合っているのか考えさせ、浜松市の移り変わりを多角的な視点から理解させる。

資料から必要な情報を抜き出すことが苦手な〇〇児には、資料を見る視点を与え、資料に線を引いたり、丸を付けたりするなどし、必要な情報が分かりやすくなるように支援する。

(3) 社会科研究部研究の観点から

ア 主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善

(ア) グループでの対話を通じた関わり合い

本単元では、児童が学ぶ必要感をもつことができるように、ジグソー学習を取り入れる。「交通」「公共施設」「土地利用」「人口」「生活の道具」の5つの視点について、最初にエキスパートグループで調べ、その後調べたことを友達と伝え合う。自分で調べたことを後に友達に伝えるという目的意識を持たせることで、主体的に調べることができるように考える。

(イ) 主体的な学びにつながる振り返り

毎時間授業の終わりには分かったこと・学んだことに対する振り返りを書くようにし、自分の考えや次時への関心をもたせるようにする。

イ キャリア教育の観点から

(ア) 未来を想像する力の向上にむけて

昔の市の様子や人々の生活を調べていくことで、現在の自分の生活は、人々の努力や思いの上に成り立っているものであることを実感させたい。また、もっと自慢できる浜松市を考えていく際には、浜松市の現在抱えている問題に対してどう向き合っていくのかを切り口に、将来の自分の生活や街を想像できるようにしたい。そのために、ジグソー学習で学んだ5つの視点について、変化を関連づけて考えていくことを大切にしたい。

(イ) 課題対応能力の育成

課題対応能力を育成していくために、単元の始めには学習課題を設定し、課題に対して何をしていけば解決できそうかを考えさせる。また、児童がより深く課題を追究することができるように、今と昔の町の様子が分かる写真や人口のグラフなどの資料を準備する。

(4) 単元の学習計画（13時間）

段階	学習活動	時	主なUD支援
つかむ	○ 泉小学校の周りの航空写真から昔と今の違いに気づき、学習課題を立てる。	1	○ 昔の様子と今の様子が分かる航空写真をグループ用と黒板用の2種類用意する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 浜松市や人々の生活の様子は、どのように移り変わってきたのだろうか。 </div> ○ 浜松市のどんなところが移り変わってきたのかを予想する。	1	○ 予想を短冊に書き、似ているもの同士を分類できるようにする。
深める	○ 5つのグループ（エキスパートグループ）に分かれて、それぞれ担当する課題について調べる。（ジグソー学習）	3	○ 時代ごとの変遷をまとめられるように、「大正」「昭和」「平成」の3つの視点を入れたマトリクスを使ったワークシートを用意する。
	○ 昔の道具を体験し、疑問に思っていることをインタビューする。（校外学習）	2	○ 調べて分かったことを伝えたり、分からなかったことを質問したりできるように、伝えたいこと・聞きたいことを書くワークシートを用意する。
	○ 校外学習で学んだことをまとめる。	1	○ 見学時の様子を想起させるために、写真を提示する。
まとめる	○ エキスパートグループで調べたことを友達と伝え合い、浜松の昔の様子を知る。	2	○ 気付いたことを共有化するために、拡大ワークシートに視点同士の関連していることをまとめる。
広げる	○ これからの浜松市の様子を「交通」「公共施設」「土地利用」「人口」「生活の道具」の視点から考える。 (本時)	1	○ 根拠を明らかにして考えることができるように、「浜松市やらまいか総合戦略」を参考にする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> もっと自慢できる浜松市にするにはどうしたらいいのか。 </div> ○ 浜松市の暮らしの移り変わり年表を作る。	2	○ 関連しているところに色をつけたり、線を引いたりする。

5 本時の学習 (11/13 時)

(1) 本時の目標

「交通」「公共施設」「土地利用」「人口」「生活の道具」の5つの視点からもっと自慢できる浜松市を考える活動を通して、市や人々の生活の様子やその変化に気づき、ワークシートにまとめることができる。
(思考・判断・表現)

(2) 学習の展開

学 習 活 動	形態	・留意点 ④視点⑤ユニバーサル支援 ★個別支援 ⑥評価
<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>○ 浜松市は昔から今になるまでの間に、どのような変化がありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バスや新幹線などができて、移動が簡単になった。 ・ 道具が安全で便利になった。 ・ 人口は途中で増えてきたけれど、最近では減っている。 	全	<p>④ 前時の学習を想起させるため、学習したことをまとめたマトリクスを提示する。</p> <p>⑤ 浜松市の変化における課題に気付くことができるように、浜松市の今後の人口の推移のグラフを提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時で挙げたバスの運行台数の減少、利用者の減少などの問題も挙げ、現在の浜松市のままでいいのか考えさせる。
<p>⑥ どうしたらもっと自慢できる浜松市になるのかな。</p> <p>2 今まで学習した5つの視点を基に自慢できる浜松市を考える。</p> <p>○ 「浜松市やらまいか総合戦略」で今までの学習と似ている部分がありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「安心・安全」は「交通」の変化と一緒だね。 ・ 「公共施設」の変化の「楽しい」と「にぎわい」は似ているよ。 <p>○ 今まで学習した視点から、自慢できる浜松市にするためには、どうしたらいいのか考えましょう。</p>	個 ↓ 全	<p>④ 市が行っている政策を参考にして考えることができるように「浜松市やらまいか総合戦略」を簡略化したものを取り上げる。</p> <p>⑤ 5つの視点と「浜松市やらまいか総合戦略」のキーワードを繋げて、考えることができるように、キーワードには水色、視点にはピンクの色画用紙を使い、ワークシートと対応させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エキスパートグループで担当した視点を基本に考えさせる。(個人用ワークシート)
<p>⑥ ・ もっと安全な街にするために、道路の整備を続けていってほしいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もっとにぎわう街にするために、新しい公共施設を建ててほしい。 ・ もっと便利な街にするために、みんなが使いやすい道具を作ってほしい。 ・ もっと支え合える街にするために、お年寄りにやさしい施設があるといいな。 	個 ↓ グ ↓ 全	<ul style="list-style-type: none"> ・ エキスパートグループで担当した視点を基本に考えさせる。(個人用ワークシート) ★ 考えることができない児童には、昔から今までの変化のキーワードや課題を参考にするように声を掛ける。 ・ バス・学校・図書館・お店など具体的に考えていくときのヒントとなるような言葉を示し、考える視点を与える。 <p>⑥ 友達の考えを共有するために、生活班で考えを発表し合い、その後、一番良い考えを短冊に書き、全体で発表する。</p>
<p>3 感想を書く。(振り返り)</p> <p>○ 自慢できる浜松市にするために大人になったら何を頑張りますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域がもっと盛り上がるようにイベントを考えたい。 ・ 自然が少なくならないように、自然を大切にしていきたい。 	個	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りには、自分は将来どんな生活をし、どんな大人になっているのか想像させる。 <p>⑥ 「交通」「公共施設」「土地利用」「人口」「生活の道具」の5つの視点からもっと自慢できる浜松市を考える活動を通して、市や人々の生活の様子やその変化に気づき、ワークシートにまとめることができたか。</p> <p>(思考・判断・表現：ワークシート・発言)</p>

